



「内國勸業博覧會美術館之圖」

明治10年、東京上野公園で開かれた内國勸業博覧會（第1回）の美術館の内部の様子。書画、工芸品が所狭しと展示され、当時の美術界を大いに刺激した。文明開化期のさまざまな姿の観衆も実によく描かれている。（本文11頁参照）

豎大判錦絵三枚続 應需廣重（三代）画 熊谷庄七版 明治十年九月三日御届 『錦絵（明治）』のうち

〈請求記号 別7516〉



『太平洋画会カタログ』

古作勝之助編 画報社 明治36年，明治37年10月 2冊 図版 23cm

太平洋画会は、日本で初めて組織された洋風美術団体である明治美術会の後身として明治34年11月に創立され、翌年1月に第1回展を開催。白馬会とともに日本洋画界の二大潮流を形成するに至った。図版は第2，3回展の図録の表紙。（本文30頁，31頁参照）

〈請求記号 YDM70201〉

信仰の悲み

関根正二
遺作展覧會



兜屋畫堂

『信仰の悲み』 関根正二遺作展覧會

石河司興編 兜屋畫堂 大正8年9月 63p 図版13枚 22cm

大正8年6月16日に20歳で夭折した洋画家・関根正二の遺作展覧會目録。「信仰の悲(し)み」は大正7年9月の第5回二科会展覧會に出品した作品のタイトルである。(本文66頁参照)

〈請求記号 372-296〉